

株式会社 **カワタ**





● 株主のみなさまへ

第63期 中間報告書

平成23年4月1日から
平成23年9月30日まで

株式会社 **カワタ**

証券コード 6292

さまざまな分野に貢献する カワタの機器&システム

- 医薬品
Pharmaceuticals



- 食品
Food



- プラスチック
Plastic



- セラミック
Ceramic



- 化粧品
Cosmetics



- 金属
Metal



カワタの理想的な
ミキシング技術が、
幅広い分野と多様なニーズに、
お応えしています

- 顔料
Pigment



KAWATA's ideal mixing technology
meets the diverse needs of a wide
range of field.

- カラートナー
Color Toner



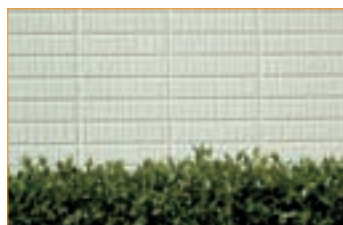
- 太陽電池
Solar cell



- 液晶用光学フィルム
Glass for LCD



- 建材
Construction materials



ごあいさつ

世界経済は欧州の債務問題の深刻化、米国経済の減速懸念、先進国の高水準の失業率等、先行きに対する不透明感が増してきております。一方、新興国においては成長ペースは鈍化してきているものの、引き続き高い経済成長率を持続しております。

わが国経済は、急速に進んだ円高への懸念がある一方で、東日本大震災直後の落ち込みから、サプライチェーンの復旧に伴い製造業の生産は回復に向かいつつあり、個人消費にも持ち直しの動きが見られます。また、設備投資の動向を知るうえで先行指標の一つである機械受注統計の推移を見ても、製造業の機械受注額は7月が前月比5.2%減だったのに対し、8月は前月比13.7%増と改善しており、今後の設備投資の持ち直しが期待されております。

このような環境下、当社グループは、プラスチック成形関連のコアビジネスにおきまして、品質の向上、納期の確守、新製品の開発等、競争力強化によるマーケットシェアの拡大を図るとともに、電池、食品、化粧品等の新規販売分野の開拓・拡大に注力してまいりました。

この結果、売上高は中国、タイ等の東アジア、東南アジアが好調であったこと、国内においてもフィルム、シート等、電子部品関連の需要が堅調に推移したこと等により、前年同期比8億5千万円増（同14.3%増）の67億9千9百万円となりました。

損益面では、売上高の増加に伴う売上総利益の増加に加え、材料費を中心とした原価低減や諸経費の低減努力を継続してまいりましたが、価格競争の激化による売上総利益率の低下、国内における賃金カットの中止や中国における賃金上昇による労務費の増加等により、営業利益は前年同期比7百万円減（同2.1%減）の3億2千3百万円となりました。また、一時帰休の取り止めに伴う助成金収入の減少、為替差損や社債発行費の発生等により、経常利益は前年同期比5千9百万円減（同18%減）の2億7千1百万円となりました。

これから、固定資産売却益5千2百万円を特別利益

に計上し、法人税、住民税及び事業税1億2千6百万円等を計上した結果、中間純利益は前年同期比3千万円減（同15.8%減）の1億6千4百万円となりました。

中国を中心とする東アジアや東南アジア諸国の需要は総じて堅調ではありますが、世界経済の停滞による年度後半の減速やタイの大洪水に伴う日系企業の生産体制の混乱等も予想されます。

当社グループでは、かかる環境下、コアビジネスにおきまして、生産拠点（日本、中国、インドネシア）および営業・サービス拠点（日本、中国、台湾、東南アジア、米国）相互の連携を強固にし品質、コスト、納期面での競争力を一層強化することにより、グローバル化するユーザーニーズへ対応しマーケットシェアの拡大と収益力の向上を図ってまいります。一方、高付加価値製品の開発や環境、電池、食品、化粧品等の新規販売分野の開拓・拡大にも積極的に経営資源を投下することにより、市場対応力のある企業として成長を続け、企業価値・株主価値を高めるとともに、コーポレート・ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、内部統制システムの整備・運用と改善の継続、人材の育成と強化により、経営体質の一層の強化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

代表取締役社長 湯川直人



インドネシア新工場竣工



当社はインドネシアで、中国・上海工場から部品セットを持ち込んで組み立てるノックダウン（KD）方式で生産を始めました。東南アジアでは中国・上海に次ぐ規模の生産拠点になり、成長著しい東南アジア地域とりわけインドネシア内需に向け、先行きはインド市場も視野にプラスチック射出成形機周辺機器需要の取り込みを図っていきます。

新工場の場所は、インドネシアの首都ジャカルタ市内から車で約一時間のブカシ市に在るジャバベカ工業団地にあります。10月5日午前10時から現地で「PT・カワタインドネシア」新工場の竣工披露式を行いました。

インドネシアの射出成形機市場は、日本からの輸出は315台、昨年同期は247台で、タイの市場816台に比べるとまだ小規模ですが、インドネシアの自動車市場が拡大している事と日系自動車メーカーが全体の6割を占める圧倒的シェアを誇っています。

更に、インドネシアへの日本からの投資額は3年前は700億円でしたが、今年直近では3,000億円に伸びています。

これらの事から新工場をジャバベカ工業団地に建設しました。ユーザーの9割がこの50^キ圏に工場を持っており、営業やサービスでも顧客をフォローし易い環境にあります。

I P F（国際プラスチックフェア）2011開催

国際プラスチックフェア（IPF2011）は去る10月25～29日の5日間に千葉幕張メッセで開催されました。

3年に1回開催されるプラスチック最大のフェアで今回で7回目。757社団体が出展しました。

今回はより専門分野に的を絞った①高機能プラスチック原料・フィラー展。②プラスチック成形機・成形関連システム展。③プラスチック金型設計製造システム展など8つの専門展に分割、来観者の情報収集をし易く配慮したのが特色です。

また、全出展のうち約三分之一が海外企業であり、台湾・ドイツ・米国・中国・イタリアと多彩を極め、そんな中、当社はADVANCED・CES&ONE・STOP・SOLUTIONの展示会コンセプトの元、チャレンジC・E・S（コスト・エネルギー・スペース）への取り組みを提案しました。

とりわけ、新製品の窒素乾燥機（①窒素雰囲気下で安定した乾燥。②空気輸送を行わないため、粉の発生がない。）同じく新製品の微粉分離除去機（①成形機上に設置が可能なコンパクトサイズを実現。②最高99%以上の微粉分離率でパフォーマンスが高い。）など、「高品質」「高精度」「高付加価値」製品に注目が集まっていました。



新製品

光学製品製造に貢献しています



▲ 微粉分離除去機 ゼノフィルター



▶ バッチ式窒素乾燥機 アダム ▶

リチウムイオン電池・食品・
プラスチック成形材料に
貢献しています



▶ 高速流動混合機
スーパーミキサー ▶



◀ ロスインウエイト式
連続粉体供給装置
ウイングスケラー

会社概要

(平成23年9月30日現在)

商号	株式会社カワタ (KAWATA MFG. CO.,LTD.)
本社	〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目15番15号
設立	昭和26年7月13日
資本金	977,142,640円
従業員数	160名(連結642名) (役員 出向社員 パート 嘱託は除く)
株主数	1,135名

役員 (平成23年9月30日現在)

代表取締役社長	湯川直人
代表取締役常務	尾崎彰
取締役	森畑秀則
取締役	柴孝幸
取締役	藤坂祐宏
取締役	荒川愼一
常勤監査役	村岡和博
監査役	内田重胤
監査役	軸丸欣哉

主な事業所

本社	大阪市西区
仙台営業所	仙台市太白区
東京営業所	東京都中央区
高崎営業所	群馬県高崎市
北関東営業所	栃木県小山市
南関東営業所	神奈川県厚木市
静岡営業所	静岡市駿河区
名古屋営業所	名古屋市東区
大阪営業所	大阪市西区
広島営業所	広島市中区
九州営業所	福岡市博多区
三田工場	兵庫県三田市



設計、開発、生産拠点 (三田工場)

カワタグループ紹介

子会社等の状況

カワタU.S.A. INC.	米国 ペンシルバニア州
カワタパシフィックPTE. LTD.	シンガポール国
カワタタイランドCO., LTD.	タイ国 バンコク市
カワタマーケティングSDN. BHD.	マレーシア国 ネゲリセムビル州
川田機械製造（上海）有限公司	中華人民共和国 上海市
PT. カワタインドネシア	インドネシア共和国 西ジャワ州
川田国際股份有限公司	中華民国 台湾省 新竹市
川田機械香港有限公司	中華人民共和国 香港特別行政区
(株)カワタテクノサービス	大阪市西区
(株)サーモテック	大阪市西成区
エム・エルエンジニアリング(株)	静岡県藤枝市



川田機械製造（上海）有限公司



川田機械製造（上海）有限公司 第3工場



川田機械製造（上海）有限公司 第2工場

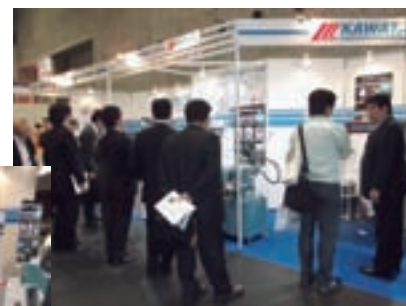


インドネシア工場

粉体工業展

当社は去る10月19日～21日の3日間、インテックス大阪で開催された「粉体工業展大阪2011」（主催(社)日本粉体工業技術協会）に、ロスインウエイト式連続粉体供給装置「ウイングスケーラー」（新商品）、微量供給機「ファインズビット」（新商品）、高速流動混合機「スーパーミキサー」などを出展。

粉体加工における輸送・計量・混合・温調の技術を実演しました。



連結決算情報

● 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	当中間期末 平成23年9月30日現在	前期末 平成23年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	10,205	9,297
固定資産	2,597	2,608
有形固定資産	2,183	2,196
無形固定資産	25	26
投資その他の資産	388	385
資産合計	12,803	11,906
【負債の部】		
流動負債	4,275	3,938
固定負債	3,192	2,778
負債合計	7,468	6,716
【純資産の部】		
株主資本	5,387	5,276
資本金	977	977
資本剰余金	1,069	1,069
利益剰余金	3,382	3,271
自己株式	△ 41	△ 40
その他の包括利益累計額	△ 216	△ 231
少数株主持分	163	144
純資産合計	5,335	5,189
負債純資産合計	12,803	11,906

● 中間連結損益計算書

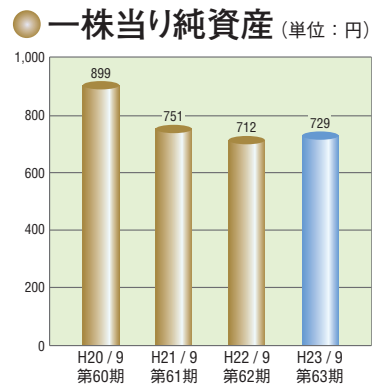
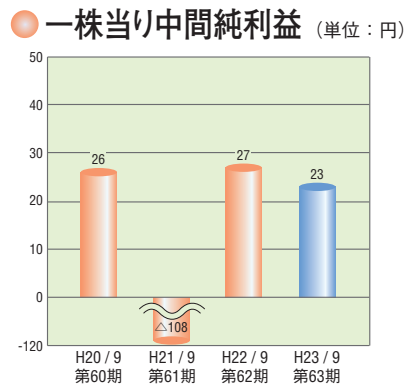
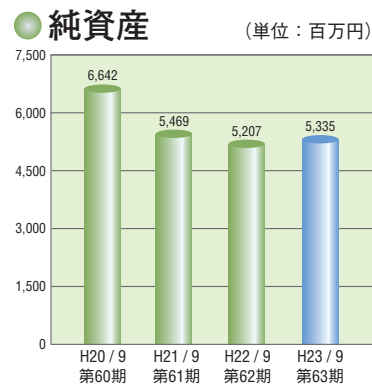
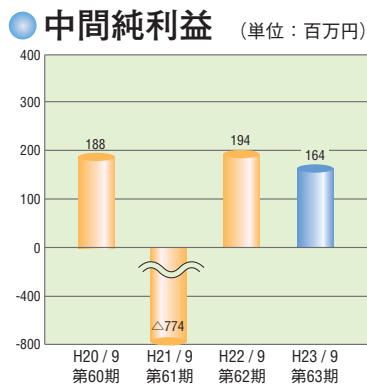
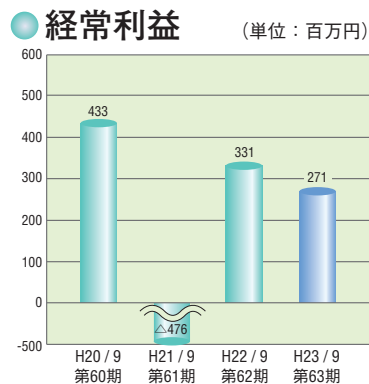
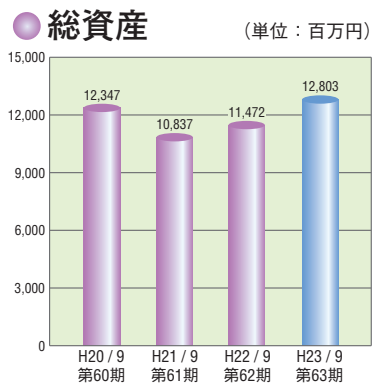
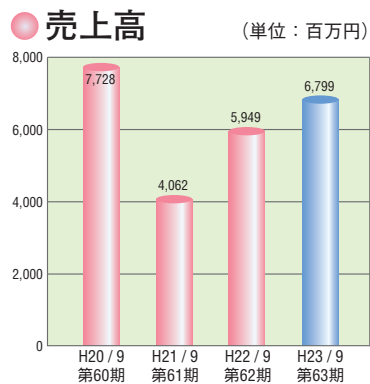
(単位：百万円)

区 分	当中間期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前中間期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	6,799	5,949
売上原価	5,028	4,328
売上総利益	1,771	1,621
販売費及び一般管理費	1,448	1,291
営業利益	323	330
営業外収益	21	49
営業外費用	72	48
経常利益	271	331
特別利益	52	—
特別損失	2	—
税金等調整前中間純利益	321	331
法人税、住民税及び事業税	126	124
法人税等調整額	△ 0	△ 11
少数株主損益調整前中間純利益	195	218
少数株主利益	31	23
中間純利益	164	194

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区 分	当中間期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前中間期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 604	△ 39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4	△ 18
財務活動によるキャッシュ・フロー	709	△ 31
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△ 18
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	109	△ 108
現金及び現金同等物の期首残高	3,288	3,398
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,398	3,289



(注) 記載金額は、単位未滿を切り捨てて表示しております。

株式情報

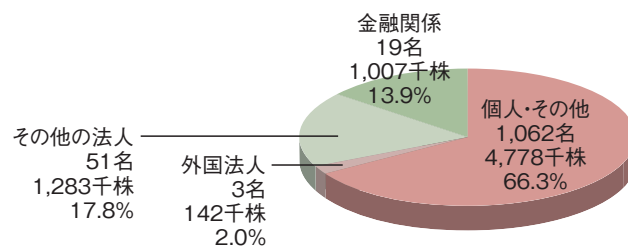
- ・発行可能株式総数 20,000,000株
- ・発行済株式の総数 7,210,000株
- ・単元株式数 1,000株
- ・株主数 1,135名
(前期末比21名減)

・大株主の状況

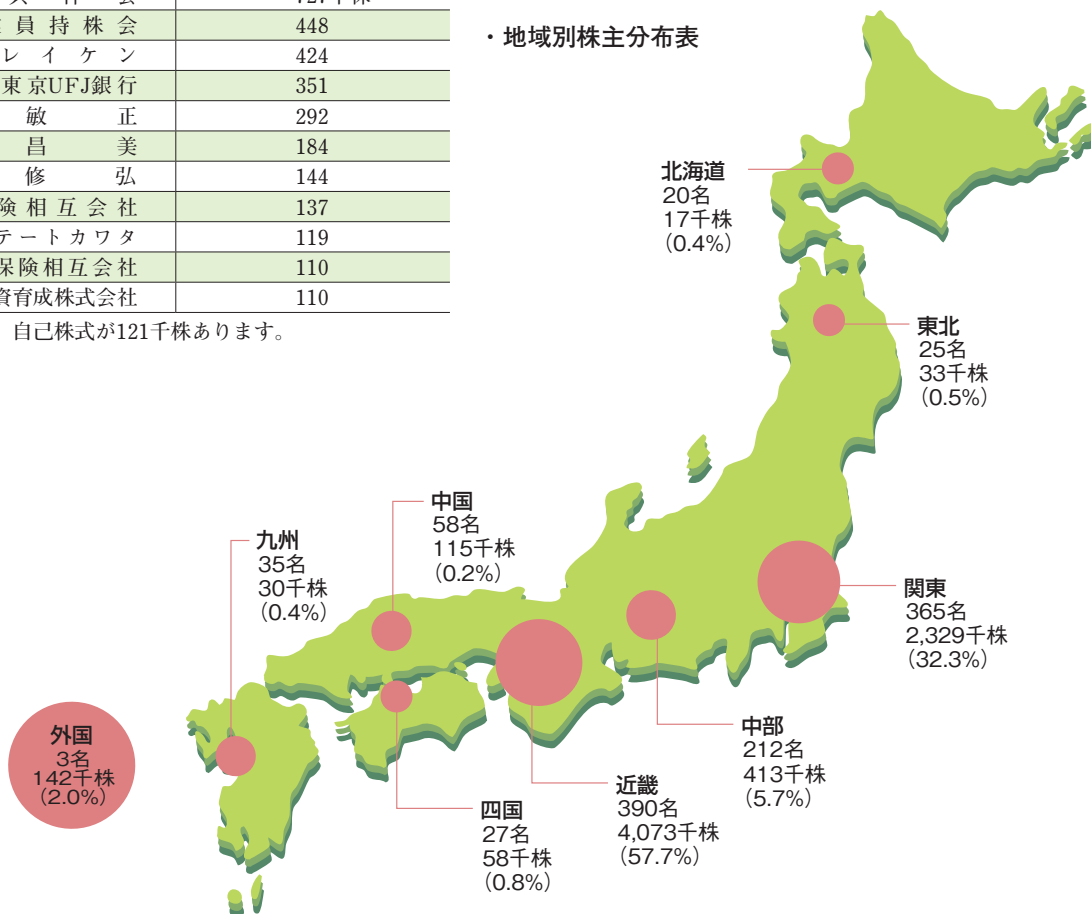
株主名	持株数
カワタ共伸会	727千株
カワタ従業員持株会	448
株式会社レイケン	424
株式会社三菱東京UFJ銀行	351
太田敏正	292
川田昌美	184
川田修弘	144
日本生命保険相互会社	137
有限会社エステートカワタ	119
明治安田生命保険相互会社	110
大阪中小企業投資育成株式会社	110

(注) 上記のほか、自己株式が121千株あります。

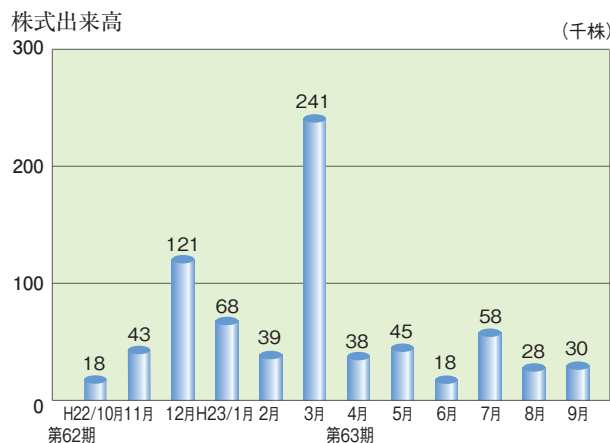
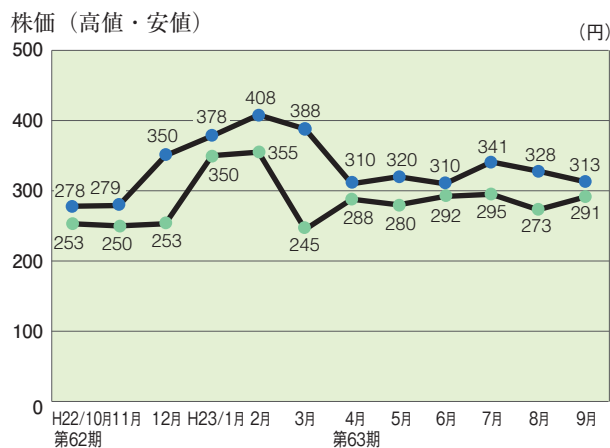
・所有者別分布表



・地域別株主分布表



・株価チャート



株主メモ

- ・事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ・定時株主総会 毎年6月中
- ・基準日 定時株主総会 3月31日
 剰余金の配当 期末 3月31日
 中間 9月30日
- ・株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ・特別口座の管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 ☎0120-094-777 (通話料無料)
- ・公告方法 電子公告
 当社ホームページ
 (<http://www.kawata.cc/>) に掲載
- ・株式取引 大阪証券取引所ジャスダック(スタンダード)
- ・会計監査人 新日本有限責任監査法人

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお待ちしております。